

【成果情報名】 夏季におけるLAハイブリッドユリの適品種選定（8月出荷）

【要約】 LAハイブリッドユリの8月出荷作型では、切り花長が長く、上物率が高い「ファンギオ」、「メノルカ」が有望である。

【キーワード】 LAハイブリッドユリ、8月出荷

【担当機関名】 暖地園芸センター 園芸部

【連絡先】 0738-23-4005

【部会名】 野菜・花き

【分類】 指導

【背景・ねらい】 暖地におけるLAハイブリッドユリ8月出荷の氷温貯蔵球を用いた適品種を選定する。

【成果の内容・特徴】

1. 切り花長・茎長は、対照品種の「アルガーブ」に比べて「ファンギオ」、「メノルカ」は長く、「ストレット」、「ミュージック」は短かい（表1）。
2. 茎径は、「アルガーブ」に比べて「メノルカ」はやや太く、「ストレット」、「ファンギオ」、「ミュージック」は同程度である（表1）。
3. 切り花重は、「アルガーブ」に比べて「メノルカ」は重く、「ファンギオ」は同程度、「ストレット」、「ミュージック」はやや軽い（表1）。
4. 一次花蕾は、「アルガーブ」に比べて「ストレット」、「ミュージック」はやや多く、「ファンギオ」、「メノルカ」は同程度である（表1）。二次花蕾は、「アルガーブ」に比べて「ストレット」はやや多く、「ファンギオ」、「ミュージック」、「メノルカ」は同程度である（表1）。散形花序は、「アルガーブ」に比べて「ストレット」、「ファンギオ」、「ミュージック」はやや多く、「メノルカ」は少ない（表1、図1）。
5. 到花日数は、「アルガーブ」に比べて他の4品種が1～2日早い（表2）。上物率は、「アルガーブ」に比べて「ファンギオ」、「メノルカ」はやや高く、「ストレット」、「ミュージック」はやや低い（表2）。

【成果の活用面・留意点】

1. 氷温貯蔵球を用いた成果である。
2. 高温期定植の作型では、氷温貯蔵球を解凍（5℃前後）後、芽伸ばし処理が必要である（13℃で2週間程度、芽の長さ5～10cm程度）。

[具体的データ]

表1 8月出荷作型における生育特性

品種名	切り花長 (cm)	茎長 ^Z (cm)	茎径 (mm)	切り花重 (g)	一次花蕾 数(個)	二次花蕾 数(個)	散形花序発 生率 ^Y (%)
ストレット	66.2	53.9	8.5	80.0	5.8	1.8	96.7
ファンギオ	93.8	82.9	9.3	115.1	4.6	0.0	100
ミュージック	67.5	55.9	9.3	90.7	5.6	0.3	100
メルカ	103.2	93.0	10.3	164.1	4.8	0.0	53.3
アルカーブ	80.1	68.6	8.8	108.5	4.8	0.0	86.7

注) 2006年6月27日定植(球周14~16cm)

栽植密度: ベッド幅90cm、株間15cm、条間12cm、6条植え

元肥: N:P₂O₅:K₂O=2:2:2kg/a、追肥: N:P₂O₅:K₂O=1:1:1kg/a、遮光率60%で管理

^Z総状花序は花穂中央まで、散形花序は花穂までの長さ

^Y総状花序と散形花序の中間タイプを含む

表2 8月出荷作型における開花特性

品種名	花色 (JHSCC)	平均採花日 (月/日)	到花日数 (日)	上物率 ^Y (%)
ストレット	淡橙黄 (2202)	8/7	41 ± 0.2 ^Z	88.3
ファンギオ	明紫赤 (9706)	8/8	42 ± 0.2	100
ミュージック	白 (-1)	8/8	42 ± 0.2	71.7
メルカ	明橙 (1604)	8/8	42 ± 0.2	98.3
アルカーブ	淡ピンク (0102)	8/9	43 ± 0.2	93.3

注) 2006年6月27日定植(球周14~16cm)

栽植密度: ベッド幅90cm、株間15cm、条間12cm、6条植え

元肥: N:P₂O₅-K₂O=2:2:2kg/a、追肥: N:P₂O₅-K₂O=1:1:1kg/a、遮光率60%で管理

^Z平均値±標準誤差

^Y切り花長60cm以上で3輪以上の切り花

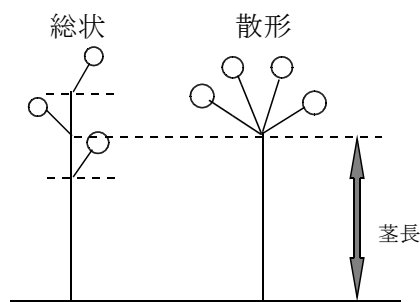


図1 花序の分類および茎長の測定位置

[その他]

研究課題名: 多様化する消費形態に対応した新花き生産技術開発

予算区分: 県単

研究担当者: 紺谷均・宮前治加

研究期間: 平成16~18年

発表論文等: